

# 陸連時報 三

2014  
平成26年 4 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

2014年度強化委員会各ブロックの抱負(強化委員会).....	166
第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会(台北/2014)日本代表選手選考要項.....	169
第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会(ユーゼーン/2014)日本代表選手選考要項.....	169
第62回兵庫リレーカーニバル(ジュニア女子3000m障害物)申込要項.....	169
JAAF コーチングクリニック報告(普及育成委員会 櫻田淳也).....	170
2013年度全国競技運営責任者会議報告(理事・競技運営委員長 吉儀宏).....	172
2013年度全国区域技術役員会議報告(施設用器具委員会).....	174
国際陸連 (IAAF) クロスカントリー委員会報告 (IAAFクロスカントリー委員会委員 澤木啓祐).....	176
国際陸連 (IAAF) クロスカントリー・グローバルセミナー報告 (強化委員会男子中距離・マラソン部委員 高岡寿成).....	176
国際陸連 (IAAF) 医事ドーピング防止コミッション会議報告(理事・医事委員長 山澤文裕).....	178
大会観戦ガイド.....	179
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 2014年度強化委員会各ブロックの抱負

強化委員会

## 【男子短距離部】

男子短距離部長 伊東 浩司

2014年度男子短距離ブロックは、ロンドンオリンピック後、リオデジャネイロオリンピックにむけての4年計画をたて、その中間年にあたる今年度は、個人・チーム力を高めるための重要な年に位置付けている。特に、様々な経験を積んでいきながら個人の競技力向上が、モスクワ世界選手権以後の大きな課題となっている。

そのような流れの中、2014年日本ジュニア室内大阪大会ジュニア60mにおいて、洛南高校の桐生祥秀選手が6秒59の素晴らしいジュニア室内日本記録を樹立したことは朗報である。

まず、男子短距離ブロックの最重要大会の位置づけは、世界リレー選手権・仁川アジア大会である。世界リレー選手権は、新設大会であるが、決勝8位以内に入ると2015年度世界選手権の出場権を獲得できる重要な大会である。

世界選手権の出場権を獲得するために、昨年12月にナショナルリレーチームを発足した。4×100mリレー・4×400mリレーとも所属先のご理解のもと、月1回の合宿を実施し、世界リレー選手権にむけて準備をすすめている。両リレーとも、世界リレー選手権以後に残り参加枠を争うのではなく、この世界リレー選手権での出場権獲得を考えている。2015年度の世界リレー選手権は、リオデジャネイロオリンピックの出場権をかけた大会になり、世界選手権本番同様、この大会に集中するためにも、今年度の世界リレー選手権でしっかりと結果を残したいと考えている。仁川アジア大会に関しては、100mの張培萌選手（中国）をはじめ、各国ともレベルアップしていることは、2013年度の世界選手権・アジア選手権で勝負をする中で痛感している。どの種目も気象条件が整えば、日本記録を更新しないと1位になれない状況である。リオデジャネイロオリンピックで目標を達成するためには、この仁川アジア大会でしっかりと勝負をして勝つことが重要と考える。

以上の大会等で成果を残せるよう、所属先と協力体制を強固にしながらいきたいと考える。

## 【女子短距離部】

女子短距離部長 瀧谷 賢司

2013年度シーズンの反省を精査し、12月からナショナルリレーチームの強化に取り組んでいる。具体的には、チームリーダーとして総合的に成長し、自力の向上を期待しなければならぬ福島千里選手（北海道ハイテクAC）を単独でオーストラリア合宿に派遣した。現地では、サリフ・ピアソンの元コーチであるヨハン氏の指導を受けた。

また、ブロックとしては月に1～2回の合宿で、各選手の目標設定の明確化及び意識変革をテーマとしながら、チームとしての結束力等の課題をあげ、各選手の長所・短所を掌握し、リレーの強化を通して個々の能力のレベルアップを目標に取り組んできた。

4×100mリレーに関しては、日本選抜和歌山大会のトライアル（4/26）をシーズンのスタートと捉え、ゴールデングランプリ（5/11）での世界リレー選手権標準記録（43"80）を突破し、世界リレー選手権に臨みたい。

仁川アジア大会を今年度の最大目標と位置づけ、日本記録（43"39）更新と金メダル獲得を目指し、42秒台への足がかりを確かなものとした。

4×400mリレーに関しては、2013年度は若い力が躍進し、新しい世界が見えた感がある。

若い力の杉浦はる香選手（浜松市立高校→青山学院大学）・大木彩夏選手（新島学園高校→群馬大学）・神保祐希選手（金沢二水高校→筑波大学）・田村友紀選手（岩手大学→盛岡市役所）・青山聖佳選手（松江商業高校）と経験豊富な千葉麻美選手（東邦銀行）・青木沙弥佳選手（東邦銀行）の融合に期待したい。4×100mリレーと同じく和歌山をシーズンインと考え、ゴールデングランプリで世界リレー選手権標準記録（3'33"00）を突破し、世界リレー選手権に臨みたい。

仁川アジア大会では日本記録（3'30"17）更新と金メダル獲得を目指し、3分25秒台への足がかりとした。

更にU23選手の可能性の追求、U19選手のタレント発掘を常に頭にいれながら強化していきたい。又、ロンドンオリンピック組の高橋萌木子選手（富士通）、市川華菜選手（ミズノ）の復活に期待し、バックアップしていく事が総合力の強化につながるものと信じている。

最後にあくまでもリオデジャネイロオリンピックに向けて、確かな結果を追求し、日本の女子短距離界の現状を打破し、大きな意識改革を起こさせる一年にしていく事が大切であると考えている。

## 【ハードル部】

ハードル部長 谷川 聡

今年度も昨年に引き続き、若手選手の強化を中心としながら、リオデジャネイロオリンピックに向けて残りの2年半、長期的戦略を持ちながら進めていきたい。そのために、昨年に引き続き各コーチおよび選手との連携から国内外での強化拠点の確立、海外転戦および合宿などを選手自身で計画し実行できるように、自主的で自立した選手の育成が目標である。実際には、日々のトレーニングを行っている場所でのコーチおよび所属チーム関係者とパートナーシップ型での自立した選手が世界で活躍することを期待したい。昨年は、木村文子選手（エディオン）の一人での海外合宿および転戦もサポートでき、木村選手のように自主的で、自立した選手のサポートを進めたい。

2014年は、来年度北京世界選手権と2016年リオデジャネイロオリンピックに向けて、男子110mH、女子100mH、女子400mHでは、仁川アジア大会でのメダル獲得と複数人の世界選手権の標準記録突破、男子400mHでは、仁川アジア大会での金・銀メダルの獲得と複数の48秒台選手を出すことを目標したい。

そのために、13秒3台の日本記録を複数人突破することを期待したい。いずれも走力の向上から新たな技術力を高めており、十分可能な状況にある。女子100mHでも、12秒台への突破だけでなく海外転戦も視野に入れて、世界レベルの筋力・走力アップを目指してもらいたい。そのためには、世界標準を目標にするための意識改革を図っていく必要がある。女子400mHでは、ベテランも若い世代と合同練習などを実施しながら、さらなるレベルアップを目指したい。男子400mHでは積極的に海外転戦をし、リオでのファイナルへ向けて強化合宿および試合において国内外で競り合いながら48秒前半を目指したい。

各種目とも若手中心であり、それぞれの種目の専門的スプリント能力を高めていくことを主眼に、あと1年進めながら試合で技術の確認を行うことが、2015年世界選手権および2016年オリンピックでの大きな目標達成を可能にすると考えられる。そのため、シーズン前後およびシーズン中に、技術確認をするために測定合宿や専門的トレーニング手段の実践を強化合宿で行いながら、各選手がトレーニング目標と手段を設定できるようにしていきたい。

## 【男子中長距離・マラソン部】

男子中長距離・マラソン部長 宗 猛

新しい強化体制となり、1年が過ぎた。2013年のモスクワ世界選手権では、マラソンで中本健太郎選手（安川電機）が2時間10分50秒で5位入賞と後半の粘った走りが光った。中本選手の強さは極限の中で力を出し切る精神力と暑さに対する自信によるものだと思っている。今年は、マラソンでナショナルチームを立ち上げ、科学委員会や医事委員会と連携を取りながら、暑さに対する科学的アプローチも行き、強化に繋げていきたい。

長距離では、モスクワ世界選手権で宇賀地強選手（コニカミノルタ）が8000mまで先頭グループで走り健闘したが、スピードの変化に対応できずに15位だった。課題は粘り強さとスピード変化への対応だと考える。そのためにはチームの枠を越えてレベルの高い合宿で競い合うか、海外に出てレベルの高いトレーニングを行う必要がある。素質のある若い選手が多数いるのでトレーニング次第では面白いと考えている。

中距離は、モスクワ世界選手権に選手を派遣することができなかつ

た。今年は、仁川アジア大会出場を目標に、大学生を中心に強化を進めレベルアップを図りたい。長期的には強化育成部とも連携を図り、若い選手に国際大会の経験を積ませていきたい。

マラソンでは、依然高速化の進む世界との差は広がるばかりだが、日本人選手でもレース展開次第で入賞が可能であると証明してくれた。2020年の東京オリンピック開催も決まり「東京オリンピックのマラソンでメダルを」と、口にする若い選手が増えた。まずは、2年後のリオデジャネイロオリンピックへ向けて強化策を進め、中距離、長距離、マラソンと種目間の連携を進めながら、更なる強化を図ってきたい。

#### 【女子中長距離・マラソン部】

##### 女子中長距離・マラソン部長 武富 豊

2013年モスクワ世界選手権では、少数精鋭で戦う方針の下、マラソン代表を3名・5000m・10000mにそれぞれ1名の計5名で臨んだ結果、マラソンでは富士加代子選手（ワコール）が銅メダル・木崎良子選手（ダイハツ）が4位入賞、また、10000mの新谷仁美選手（ユニバーサルエンターテインメント）が5位入賞と結果を残してくれた。

2014年度は、仁川アジア大会を最大の目標大会とし、リオデジャネイロオリンピックに繋がるチャレンジの年と位置づけ、マラソンでメダル獲得・5000m・10000m・3000m障害物での入賞をノルマとし、若手選手を積極的に登用し強化・育成を行ってきたい。

マラソンブロックでは、ナショナルチームの発足に併せ、モスクワ世界選手権前同様の合同合宿を実施し、リオデジャネイロオリンピック・東京オリンピック対策として、若手選手の育成や海外高地トレーニングの強化拠点作り、医科学チームとの連携やサポート体制を密にし、暑さ対策の方法など、リオデジャネイロオリンピック・東京オリンピックに向けた対策を構築すると共に、指導者のレベルアップや強化方針の共有を行い、空洞化と言われるマラソンの底上げに繋げていきたい。

長距離ブロックでも、新谷選手の引退などにより、強化育成が急務となっており、海外でのエチオピア・米国などの高地合宿を引き続き実施し、若手の目標意識を高め、新谷選手の積極的なレースに倣い、国内・海外を問わず積極的なレース習慣の意義を問いかけていきたい。

また、低迷する中距離ブロックでは、まず味の素NTC・JISSを拠点とし、ジュニア世代、シニア世代の壁を越えて、研修強化合宿を実施し、世界で戦う意識を持った競技者を重点に育成強化を行う。

#### 【競歩部】

##### 競歩部長 今村 文男

2013年モスクワ世界選手権では、ブロック目標として掲げた入賞2人を達成できなかったが、男子20km競歩においては、初出場の西塔拓己選手（東洋大学）が盤整から積極的なレースを展開し、見事に6位入賞を果たし、男子50km競歩では、谷井孝行選手（SGHグループさがわ）が2大会連続9位、荒井広宙選手（自衛隊体育学校）は2大会連続で自己記録を更新し11位になるなど2016年リオデジャネイロオリンピックへ向けた強化施策の成果を感じることのできた年でもあった。そこで、2014年度もブロック強化施策の重点項目として、国際競技力の向上と世界基準を意識した歩型の確立を促したい。そのためには、次の施策を優先して取り組みたいと考えている。

- ① 種目別強化の実施。強化競技者およびブロック強化対象者を中心とし、男子50km競歩においては、少数精鋭の合同合宿を実施し、男女20km競歩では、味の素NTCおよびJISSを拠点とした歩型およびフィジカル面の強化に特化した短期集中型の合宿。
- ② 種目トランスファーの促進。リオデジャネイロオリンピックにつながるU19/U23の競技者の重点強化を視野に入れた、種目別合宿と連動させながらフレキシブルに対応できる種目トランスファー（20km競歩⇔50km競歩）を意識した合宿において新たなタレントの発掘や強化育成を促進させたい。
- ③ 医・科学サポートの推進。マラソンナショナルチームでも重要視されている医事・科学委員会および情報部との連携を図りながら、リオデジャネイロオリンピックへ向けた種々の医科学サポートの推進と情報収集・分析を促進していきたいと考えている。

また、今年度の最重要国際競技会である仁川アジア大会では、中国勢が最大のライバルとなるが2013年世界ランキングにおいて、重

点強化種目の男子競歩（20km競歩、50km競歩）が優位であることから、金メダル獲得を目標とし、翌年行われる北京世界選手権、更には2016年リオデジャネイロオリンピックに向けて勢いを付けたい。

#### 【跳躍部】

##### 跳躍部長 吉田 孝久

昨年度は山本聖途選手（中京大学）がモスクワ世界選手権で6位に入賞するなどリオデジャネイロオリンピックに向けての良いスタートを切ることができた。しかし、それ以外の種目についてはベースアップをテーマに基礎体力・技術の強化を中心に行っていたこともあり、思うような成績をあげることができなかった。今年度は、男子棒高跳以外の種目でもこれまで行ってきた強化を結果につなげられるように記録と結果にこだわっていきたくと考えている。

さて、今年は9月に仁川でアジア大会が開かれる。跳躍ブロックとしてもこの大会を今年度の最重要試合として位置づけ、金メダルを含む3つのメダル獲得を目標にしている。リオでの活躍が最終的な目標ではあるが、アジアで勝負できなければ世界でも勝負できないことは自明の理である。したがって、この大会を世界に向けた足がかりとして臨みたい。

メダル獲得に向けた可能性の高い種目はこれまでの実績から、男女の棒高跳、女子走幅跳、男子走高跳が挙げられる。2月に秋のアジア大会を占うアジア室内選手権が杭州で行われたが、そこでは女子棒高跳の我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ）と女子走幅跳の平加有梨奈選手（北翔大学）が優勝し幸先の良いスタートをきっている。これ以外にも、戸邊直人選手（筑波大学）がヨーロッパでの室内競技会で2m26を跳び、男子棒高跳の澤野大地選手（富士通）と萩田大樹選手（ミズノ）も日本ジュニア室内とリノ室内でそれぞれ5m50を跳ぶなどますますの仕上がりを見せている。こうした選手を中心に、最終選考会となる日本選手権までに代表選出の一つの基準となる派遣記録を一人でも多く突破してもらいたい。

一方、昨年は国体で山本凌雅選手（諫早農業高校）が16年ぶりの高校新記録更新で注目を集めた。今年も日本ジュニア室内大阪大会で15m71とジュニア室内日本記録を更新し、2位の犬井亮介選手（洛南高校）とともに今後に向けて明るい兆しも見えてきている。彼らに続き次世代のタレント出現にも期待したい。

#### 【投擲部】

##### 投擲部長 栗山 佳也

2014年シーズン開幕まであとわずかとなったが、投擲ブロック各種目強化選手は順調に冬季練習後半をこなしている。特に韓国・仁川で行われるアジア大会では、何とか前回の広州大会を少しでも上回る成績を残せるようにしたいと考えている。今年度アジアランキングでは圧倒的に中国が上位を占めているが、一人でも多くその中に割って入ることが出来るようにしたい。特に男女やり投は連覇すること、残り男女計6種目でベスト8に最低1人ずつ入ることである。日本における過去5年間のランキング上位10傑平均値の推移では、男女やり投は順調に右上がりを示しジュニアからシニアへの移行もスムーズに行っていることが伺える。男子は大学生、女子は高校生において顕著な伸びを示し、来年の世界選手権やリオデジャネイロ、そして東京オリンピックに向けて期待の持てる強化になるものと思われる。一方で、女子砲丸投、円盤投は低迷していることから、中学・高校でのタレント発掘から強化を見直さなければならぬと考える。

講習会・クリニックでは、昨年に引き続き砲丸投（回転投げ）を行う予定だが、回転投げ普及のためには特に中学期における選手だけではなく指導者向けの講習会開催にも力を注ぎたいと考える。また新たに、円盤投とやり投において著名な外国人コーチを招聘し、選手・指導者には基本的な技術・トレーニングに加え、最新のトレーニング方法を学んでもらいたいと計画である。これらは複数年継続して行う必要があるものとする。また、科学的サポートも有効に活用しているが、更なる有効活用が必要であり現場への即効性のあるデータのフィードバックを含め、選手とサポート側が密に連絡を取り合い競技力向上に取り組む予定である。

#### 【混成部】

##### 混成部長 本田 陽

混成ブロックにとって2012年まではリオデジャネイロまでの長期強化計画が順調に実行（2011年の8000点突破＝日本記録更新・テグ世界選手権出場、2012年ロンドン五輪出場）されてきたが、昨シーズ

ンは右代啓祐選手（スズキ浜松AC）がモスクワ世界選手権に出場したものの、本番大会での8000点突破、右代選手に次ぐ8000点選手の輩出という目標は達成できなかった。2014年のシーズンはリオデジャネイロまでの長期強化計画を軌道に戻すことが最大の課題となる。

その中でも特に海外のメジャー大会において8000点以上の記録をマークすることが男子における最優先課題である。ターゲットにする大会としては10月の仁川アジア大会はもちろん、ヨーロッパで開催される混成だけの大会シリーズ（IAAF World Combined Events Challenge：5月オーストリア・ゲチス大会、6月ドイツ・ラートンゲン大会、チェコ・クラドノ大会、9月フランス・タレンス大会など）となる。世界のトップレベルの選手が集結し、これまで世界記録も数多く誕生したこれらの大会で8000点以上の記録をマークすることが、仁川アジア大会での金メダル獲得及び来年の北京世界選手権での8200点以上の結果につながるはずである。

右代啓祐選手、中村明彦選手（共にスズキ浜松AC）は順調に冬季練習をこなし、すでに今年に入ってから右代選手は2月のニュージーランド選手権（屋外）に出場し、7885点をマーク、中村選手は2月のドイツ室内選手権、アジア室内選手権に出場し、5690点（室内日本タイ記録）、5693点（室内日本新記録）と安定した結果を残している。両選手には今年は積極的に海外の試合にチャレンジしてもらいたい。右代選手、中村選手に続く選手としては音部拓仁選手（富士通）、川崎和也選手（順天堂大学）にも期待したい。

女子においては世界で戦うにはまだまだ時間がかかりそうであるが、今年から社会人アスリートとなる桐山智衣選手（中京大学→モンテローザ）、竹原史恵選手（長谷川体育施設）、昨年6年ぶりに自己ベストを更新した富山朝代選手（東大阪市陸協）などが互いに競い合いながら、今年のアジア大会でのメダル獲得、来年の世界選手権出場を目指してもらいたい。

混成競技では昨年高校生の台頭（潮崎傑選手・滝川第二高校、伊藤明子選手・田園調布学園高校→筑波大学、ヘンプヒル恵選手・京都文教高校、南野智美選手・西京高校など）が目立ったが、2020年の東京オリンピックに向けて長期的に育てていきたい。

**【情報部】 情報部長 石塚 浩**

本年度に開催される最大の国際競技大会は、韓国・仁川アジア大会である。アジアにおける日本の競技力低下は、中国の国際競技大会への登場や、オイルマネーを最大限に有効利用した中東諸国の新たなスポーツ政策によるところが非常に大きい。本年のアジア大会は、2020年東京オリンピック開催決定後、最初の国際競技会であるだけに、競技結果は6年後に繋がる内容を併せ持つことが期待される。それ故、情報部としては、仁川アジア大会に繋がる情報提供と、その後も見据えた形式での情報収集に努めたいと考えている。仁川アジア大会に関する情報としては、2013年のシーズンで日本のアジアランキングトップ競技者（アジア大会では金メダル獲得が最優先事項と想定されるため）は、表1のような競技者（種目）である。女子10000mの新谷選手の引退があるため、単純計算による金メダル獲得可能数は13個ということになる。一方で、2位にランキングされている

表1 2013年シーズン アジアランキング トップ競技者と2位競技者

<ランキングトップ競技者>			<2位競技者>		
種目	記録	氏名	種目	記録	氏名
男子 200m	20.21	飯塚 翔太	男子 100m	10.01	桐生 祥秀
男子 10000m	27.38.31	大迫 傑	男子 400m	45.56	金丸 祐三
マラソン	2:08:00	前田 和浩	5000m	13.13.60	佐藤 悠基
3000mSC	8.32.89	篠藤 淳	マラソン	2:08.14	川内 優輝
400mH	49.08	岸本 廉幸	3000mSC	8.33.48	武田 毅
棒高跳	5.75	山本 聖途	400mH	49.31	笹木 靖宏
やり投	85.96	村上 幸史	棒高跳	5.70	萩田 大樹
20kmW	1:18:34	鈴木 雄介	ハンマー投	78.03	室伏 広治
50kmW	3:44.25	谷井 孝行	十種競技	7824	右代 啓祐
4×100リレー	38.23	桐生・藤光・高瀬・飯塚	50kmW	3:45:56	荒井 広宙
4×400リレー	3:02.43	山崎・金丸・廣瀬・中野	100m	11.38	福島 千里
女子 10000m	30.56.7	新谷 仁美	400m	52.52	杉浦はる香
マラソン	2:23.34	木崎 良子	マラソン	2:24:05	野口みずき
走幅跳	6.59	岡山沙英子	走幅跳	6.55	樹見咲智子
			4×100リレー	44.38	北風・福島・渡辺・藤森

る競技者（種目）も15名おり、場合によっては、より多くの金メダルが可能と思われるが、先述のオイルマネーによるバーレーンへの国籍変更のアフリカ選手が9名もあり、4月以降のシーズンの結果によって大きく変わることも予想される。

一方、2016年リオデジャネイロオリンピック関係の情報については、すでに現地の日本人の方や現地企業の方から情報を収集している。また、日本オリンピック委員会による現地視察も今夏に予定されていることから、さらに厚みを持った情報となると思われる。強化に関わる、戦略的な視点への貢献ができればと考えている。

**【強化育成部】 U23統括 麻場 一徳**

このU23部門が強化育成部の中に設立されて2度目のシーズンを迎えようとしている。2013年シーズンを振り返ってみると、モスクワ世界選手権で山本聖途選手（男子棒高跳）と西塔拓己選手（男子20km競歩）がともに6位入賞を果たしたことは記憶に新しい。また、これも6位に入賞した男子4×100mリレーにおいて、飯塚翔太選手がアンカーの重責を果たした。このように、U23強化対象の選手が着実に力を発揮していることは頼もしい。さらに、桐生祥秀選手に代表されるように、今シーズンU19からU23に転じて来る選手たちの目覚ましい活躍があり、この部門は益々活況を呈してくるものと思われる。

当初、2016年リオデジャネイロオリンピックで活躍が期待される選手をピックアップして、それぞれの個の力を引き上げることを目的として設立されたこの部門であるが、2020年東京オリンピックが決定し、その果たす役割は益々大きくなっていくものと思われる。東京オリンピックが成功するもしないも、主力となるであろうこの世代の選手たちの活躍如何にかかってくるので、心して強化に取り組んでいかなければならない。

引き続き、国際大会で遺憾なく力を発揮できるようにすることを大きな課題として、海外での研修合宿や競技会参加等を実施していく予定である。特に2014年シーズンは、世界ジュニア選手権、アジアジュニア選手権が開催される。これらの大会は、まさしくリオデジャネイロオリンピック、東京オリンピックを占う重要な大会となるであろう。開催時期を考慮すると、高校総体との関係から、U23の選手が主体となって編成されることが大いに予想される。

さらに、仁川で開催されるアジア大会の選手選考基準において、その優先順位2番目に「強化育成部から推薦された競技者」という基準が新たに加わった。これは、リオデジャネイロオリンピック、東京オリンピックに向けて、我々に対する期待の高まりと言える。そのことを真摯に受け止め、精一杯取り組んでいきたい。

**【強化育成部】 U19統括 清水 禎宏**

昨シーズン終了後、オリンピック育成競技者を選出し、強化・育成を推進するための様々な研修合宿を実施してきた。11月は国立スポーツ科学センターでの動作分析や体力測定・医学検査などを実施、12月には各地区で実施された日本陸連U19ジュニア強化研修合宿への参加、1月の味の素NTCでのハイパフォーマンスジムを活用した基礎・基本を重視したトレーニングをはじめSNSとのつきあい方や英語のメディアトレーニングなどの研修、そして2月の沖縄での専門的なトレーニングやコンディショニング・栄養についての研修などが主な内容である（U19から5名はオーストラリアでのU23との合宿に参加）。これらの内容は、グラウンド上でのトレーニングや取り組み方はもちろんのこと、日常生活態度や情報発信源ともなるSNSの重要性、栄養の正しい摂取法やドーピング問題との関係、海外遠征を前提としたメディアトレーニングによる語学への動機づけなど、オリンピック育成競技者として今後の日本を代表する競技者に成長するため必要不可欠な内容であると考えている。

2014年度は世界ユースオリンピック競技大会アジア地域予選（5月）、アジアジュニア選手権（6月）、世界ジュニア選手権（7月）、ユースオリンピック競技大会（8月）とU19に関する国際競技会が開催される。選手の多くは高体連や学連主催の競技日程の関係で、厳しい日程となるが、ソチ冬季オリンピックでの10代選手の活躍を見ると、早い時期から国際競技会の経験を数多く積むことは、若い選手にとって大きな財産となり、国際的に活躍する競技者を育成することにもなる。高校・大学現場の御理解と御協

力により、先に述べた各国際競技会での好成績に結び付けたい。そして2020年の東京オリンピック開催が決定し、本年度のオリンピック育成競技者の中から数多くの選手が選出されることを期待している。

なお、各大会の開催場所・期日・対象年齢は以下のとおりである。

#### ▼ユースオリンピック競技大会アジア地域予選

(バンコク 5/21～22 1997/1/1～1998/12/31生)

#### ▼アジアジュニア選手権

(台北 6/12～15 1995/1/1～1998/12/31生)

#### ▼世界ジュニア選手権

(ユージーン 7/22～27 1995/1/1～1998/12/31生)

#### ▼ユースオリンピック競技大会

(南京 8/16～28 1997/1/1～1998/12/31生)

### 第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会(台北/2014)

#### 日本代表選手選考要項

##### 1. 編成方針

U19からリオデジャネイロ、又は東京オリンピックでの活躍が期待できる競技者から編成する。また、若手競技者における国際競技会経験を高める場とし、国際競技者として育成する。

##### 2. 選考競技会

- ・2014年度高校総体各都道府県予選およびその予選大会
- ・2014年度日本グランプリシリーズ(兵庫・和歌山・広島・静岡)及びゴールデングランプリ
- ・2014年度地区学生陸上競技対校選手権大会
- ・2014年度地区実業団陸上競技選手権大会
- ・第53回全日本競歩輪島大会 男女10kmジュニア競歩(追加)  
※ただし、選考委員会前に終了した大会までを対象とする。

##### 3. 選考基準

- (1) 選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者
- (2) 強化育成部員が推薦し、本大会で活躍が期待される競技者
- (3) 育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差がないようする。

##### 4. 選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

- (1) 選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を満たした競技者
- (2) 選考競技会以外の競技会で派遣設定記録を満たした競技者
- (3) 強化育成部員が推薦した競技者から、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
- (4) (1)から(3)の方法で当てはまらない該当競技者がいた場合は、専務理事および強化委員会幹部と協議する。

##### 5. 補足

- (1) 各種目2名まで出場可能。(エントリーは最大3名)
- (2) 対象者は1995年、1996年、1997年、1998年生まれ。
- (3) 本大会は、2014年6月12日から15日まで台北(チャイニーズ・タイペイ)で開催される。
- (4) エントリールールの詳細は、大会組織委員会からの発表後に公表する。

### 第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会(ユージーン/2014)

#### 日本代表選手選考要項

##### 1. 編成方針

U19からリオデジャネイロ、又は東京オリンピックでの活躍が期待できる競技者から編成する。また、若手競技者における国際競技会経験を高める場とし、国際競技者として育成する。

##### 2. 選考競技会

- ・2014年度全国高校総体都道府県予選
- ・2014年度全国高校総体各地区予選
- ・2014年度地区学生陸上競技対校選手権大会
- ・2014年度地区実業団陸上競技選手権大会
- ・2014年度日本学生陸上競技個人選手権大会

・第53回全日本競歩輪島大会 男女10kmジュニア競歩

・日本ジュニア選手権混成大会

・第16回アジアジュニア選手権大会(台北/2014)

・第98回日本陸上競技選手権大会

・2014年度日本グランプリシリーズ(和歌山・兵庫・広島・静岡)

及びゴールデングランプリ

・第2回ユースオリンピック競技大会アジア地域予選(バンコク/2014)

・第62回兵庫リレーカーニバル オープン種目(ジュニア女子3000m障害物)(追加)

##### 3. 選考基準

- (1) 選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者
- (2) IAAFが定めた参加標準記録を突破している競技者
- (3) 強化育成部員が推薦し、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
- (4) 育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差がないようする。

##### 4. 選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

- (1) 選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を満たした競技者
- (2) 選考競技会以外の競技会で派遣設定記録を満たした競技者
- (3) 強化育成部員が推薦した競技者から、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
- (4) (1)から(3)の方法で当てはまらない該当競技者がいた場合は、専務理事および強化委員会幹部と協議する。

##### 5. 補足

- (1) 各種目参加標準記録を満たした選手で、2名まで出場可能。(エントリーは最大3名)
- (2) 2013年10月1日～2014年7月14日までを参加標準記録有効期間とする。
- (3) 対象者は1995年、1996年、1997年、1998年生まれ。
- (4) 800mまでは手動の記録は認められない。
- (5) 競歩はロードでの記録も認められる。
- (6) 本大会は、2014年7月22日から27日までユージーン(アメリカ)で開催される。

### 第62回兵庫リレーカーニバル オープン種目(ジュニア女子3000m障害物)申込要項

#### 第15回世界ジュニア選手権大会(ユージーン/2014)

#### 第16回アジアジュニア選手権大会(台北/2014)参考競技会

##### 1. 日程・種目

2014年4月20日(日) 女子3000m障害物

##### 2. 参加資格

下記の(1)、(2)の条件を満たし、本連盟登録者であり、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)を正式参加者とし、外国籍競技者はオープン参加とし順位はつかない。

- (1) 1996年4月2日から1998年12月31日の間に生まれた競技者(高校生のみ対象)
- (2) 2013年1月1日から申込締切日の間に、下記の参加標準記録に到達した競技者。
- (3) 日本陸上競技連盟強化委員会強化育成部の推薦競技者
- (4) 競技運営上、参加資格を有する競技者の中から16名を強化育成部で選抜する。

##### 3. 参加標準記録

3000m障害物 11分30秒00 1500m 4分35秒00

3000m 9分45秒00

##### 4. 参加料・申込方法

兵庫陸協ホームページ内の第62回兵庫リレーカーニバル開催要項内の申込方法をご確認ください。

(<http://www.haaa.jp/>)

# JAAFコーチングクリニック報告

普及育成委員会 櫻田 淳也

## 【第15回JAAFコーチングクリニック】

第15回JAAFコーチングクリニックを、2014年1月25日に東京の味の素ナショナルトレーニングセンターで行った。受講者は106名であった。クリニックは講師に柴田博之先生（洛南高校）と室伏重信先生（中京大学名誉教授）のお二人をお迎えして行った。

### 柴田博之先生

（洛南高校教諭）

柴田先生は、本年度100mで10秒01を出した桐生祥秀選手の指導者である。柴田先生の講義では、洛南高校の校風や歴史、練習環境などについての話があった。洛南高校は、学業でトップクラスの生徒が多く在籍し、またスポーツでトップクラスの生徒も多く在籍しているが、その生徒達がお互いを認め合い高め合っているという高校の雰囲気が、競技を行っていくにあたって良い影響を与えているということであった。また、練習環境としては、決して恵まれているわけではなく、狭いグラウンドにおいて工夫をして練習をしているとのことであった。逆にその環境において工夫することで、現在の練習方法が確立されてきた経緯もあり、もし恵まれた環境であればもっと違う形になっていたかもしれないし、桐生選手の10秒01もなかったかもしれないということであった。その後、いくつか練習方法についての紹介があり、陸上競技場へ移動しての実技となった。実技では、桐生選手がデモンストレーターとな

り、いつも行っているトレーニングを、実際の動きの中で紹介していただいた。その実技風景からも、桐生選手が生まれたことがよく分かる非常に濃い内容であった。

※2014年3月号152～157頁参照。

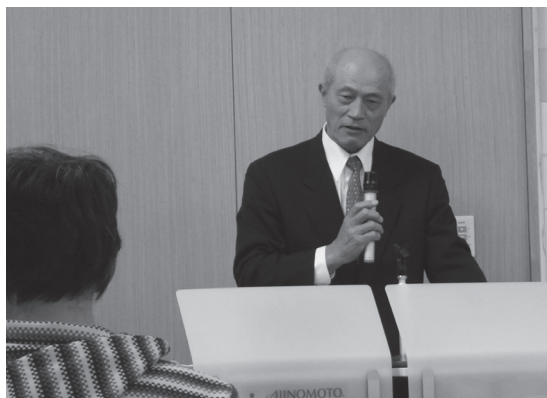
### 室伏重信先生

（中京大学名誉教授）

室伏先生には、講義中心で行っていただいた。「陸上競技の競技力向上を考える」という視点から、投擲競技について講義していただいた。その内容は、投擲競技全般にわたる基本的な理解をし、そこから競技力向上の仕組みを考え、どのようにすれば強くなっていくのかという、段階を踏んだ非常に分かりやすい説明であった。そこからさらに応用させ、深くその内容を追求し、実際のトレーニングや技術についての解説があった。投擲競技の競技力向上を考えていく場合は、「まず高い技術を習得し、その技術を表現できる体力をつくる」ことが大事で、「高い技を習得するには、慣性の中の投擲物体の加速を目標に」することや、「腕を使わずして投擲物体を走らせる」「投げる方向を見ずして、その方向に投擲物を投げ出す」ことなど専門的で高度な内容について、分かりやすく実演も交えながら、解説していただいた。



柴田博之先生（洛南高校教諭）



室伏重信先生（中京大学名誉教授）

## 【第16回JAAFコーチングクリニック】

第16回JAAFコーチングクリニックを、2014年2月11日に神戸の株式会社アシックス本社で行った。受講者は50名であった。クリニックは講師に栗山佳也先生（大阪体育大学）と伊東浩司先生（甲南大学）の強化委員会各部長のお二人をお迎えして行った。

### 栗山佳也先生（大阪体育大学教授）

栗山先生には投擲全般のお話をさせていただいたあと、各論のお話があった。特に砲丸投では、グライド投法と回転投法のことについて取り上げ、回転投げの導入方法や導入時期についてのお話があった。また、動画をもちいての技術解説もあり、グライド投法と回転投法の違いについて、詳細な解説が行われた。また、中学生～一般に移行される投擲物の重さの問題などにも触れ、今後の日本投擲界の課題などについても話をされた。講義後半では、競技力向上のためのトレーニングのポイントについての話があり、砲丸投および円盤投とやり投では、トレーニング計画立案等についてはポイントが異なることなど、詳細なお話があった。後半は実技が行われた。メディシンボールを用いたトレーニング方法を中心に、技術と体力を如何に融合させていくかということ念頭に置いたトレーニング手段が、複数紹介された。トレーニング手段個々についても、いつの時期にどれくらい行うのかなども、口頭で説明をしな



栗山佳也先生（大阪体育大学教授）

がらのトレーニング紹介であり、また技術との融合のポイントなども解説しながらの実技講習であったので、非常に理解しやすい内容であった。

### 伊東浩司先生（甲南大学准教授）

伊東先生は、桐生祥秀選手が10秒01を出す中、未だ破られない10秒00の日本記録保持者である。「100mとは」ということを、歴史的にも検証し、何がポイントなのかについて話があった。また、受講生同士での討議もあり、それを発表してもらうことで「日本人が100mで9秒台を出すにはどうすればいいか」ということについて深く考えていった。講義後半では、伊東先生自身がどのような競技生活を行ってきたか、また中学校から社会人になるまで各段階でのトレーニング内容について練習メニューの提示などで紹介があった。練習メニューについても、実際はどのように行われ、また本人はどのように感じていたかなどについても話があり、そこから日本人が9秒台を出すにはどうすればいいのか、ということを考えていく場となった。技術的な部分では、特に「スタート」に焦点をあて、「100mでトップになるためのスタート」について、経験を踏まえながら細かい技術ポイントをあげて解説していただいた。分かりやすい講義で、自身の経験もふんだんに盛り込まれた内容であったことから、受講生も熱心に聞き入り、あっという間の2時間30分の講義であった。



伊東浩司先生（甲南大学准教授）

# 2013年度全国競技運営責任者会議報告

理事・競技運営委員長 吉儀 宏

標記会議を、2014年2月15日(土)～16日(日)の2日間にわたって味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)にて開催した。以下に主な会議内容を要約する。

## 第1日目(13:00～17:00)

### 1. 開会挨拶 専務理事 尾縣 貢

日頃から陸上界発展の為のご尽力に感謝申し上げる。2020年のオリンピックに向け、全国から精鋭を集め、競技運営の研修を重ね、臨む。ルールに対して厳格であること、また、アスリートファーストの精神で頑張ってもらいたい。

### 2. 委員長挨拶 競技運営委員長 吉儀 宏

新しい日本陸連公認審判員証を作成し、審判登録をしている方に無償配布する。この段階で日本陸連への審判登録が正確に行われていないことが明らかになった。今後は登録をしっかりとしてほしい。

昨年11月に第4期JTO、JRWJ育成セミナー・認定試験を実施した。JTO10名、JRWJ 5名が合格した。今後、日本陸連主催、共催、後援競技会に派遣し、審判長及び総務の補佐に当たる。

### 3. ロードレース登録制度の経過説明

日本陸連事務局長 風間 明

2012年度の理事会においてロードレース登録について検討するよう会長から指示があり、登録制度の実施について公表した。だが、登録することへのメリット、登録方法等について再検討をする必要が生じたため、現在制度の運用については保留となっている。

### 4. 2014年度競技規則修改案

競技運営副委員長 鈴木 一弘

主な修改正を以下にあげる。

144条：競技区域外の者が撮影した試技の画像を見ることができ、再生機や画像は持ち込めない。

162条1〔注意〕(ii) 1500m競走のスタートラインは、走路と同じ舗装であれば、外側競走路にはみ出して引くことができる。

162条6〔注意〕に不正スタートの定義が挿入された。

163条9：日本記録の認定に非機械式風速計の使用は義務付けない。

184条8 跳躍距離は、着地時に身に付けていたすべてのものも痕跡となる。

230条9 供給所以外で、あるいは他の競技者の飲食物を取った場合は警告あるいは失格となる。

「上訴審判員」→「上訴陪審員」、「場内司令」→「場内管理員」の役員名称変更を検討したい。

### 5. 競技会実施報告

例年通り、各大会を主管した陸協から文書による報告があった。

### 6. 各陸協の新しい取組や工夫 審判部委員 中島 剛

各陸協から寄せられた競技運営に関する様々な工夫や取組事例の中から、「審判員の高齢化・若手審判員不足への対応(学生審判員との連携、ベテランと若手の役割分担、

女性審判員の活用など)」「競技会運営コスト削減にむけての工夫(自作・転用・借用等で活用できる事例)」について情報共有・議論を行った。

7. 施設用器具委員会報告 施設用器具委員長 平塚 和則  
競技場、競走路の公認期間は全て5年間であり、継続検定を受けなければ公認大会は開催できない。検定の延期は公認の延期ではない。

基本仕様に合致していない1種2種競技場は「B競技場」と表示されているが、2017年3月末日までに改善されない場合、降格とする。

### 8. 第1日目質疑応答

Q(山形) 審判員証の白い部分には何を記入するのか?

A(吉儀委員長) 何の制限もないが、例として、審判部署+氏名や所属陸協+氏名などが考えられる。

Q(福井) 学生が卒業後どのくらい審判員を続けているのか?

A(中島委員) データはない。今後は取っていただきたい。

Q(東京) 地域の大会でも審判員が足りず、学生審判も関東学連に依頼できるのか?

審判員カードを有償で購入して2枚持てるのか?

A(吉儀委員長) 1枚500円で購入できるので、2枚持つことも可能である。

(中島委員) 関東学連では各陸協との連携を考えている。その他の地域でやっているところがあるかもしれない。

Q(北海道) 陸連カレンダーに載せなければ、長距離の途中記録は公認にならないのか?

A(吉儀委員長) 施設用器具委員会の作成している表に○があれば公認記録となる。

Q(京都) 1年の検定期を出しているが、延期の延期はあるか? 3種を2種の競技場にしようとしているが、補助競技場は?

A(平塚委員長) 延期の延期はない。2種競技場で補助競技場があることが望ましいが、必要ではない。

(吉儀委員長) 2020年オリンピックが開催される国立競技場にサブトラックを作るよう、会長以下要請を繰り返している。

## 第2日目(9:00～12:30)

### (分科会：審判部)

1. 公認審判員昇格審査結果 審判部幹事 梶田 茂  
昇格候補者審査は2014年1月18日に実施し、230名を審査した。その結果、228名を昇格候補者とした。

### 2. 不正スタート・警告時の対処行動検証

審判部長 黒澤 達郎

不適切行為による警告は、不正スタートの以前であろうが以後であろうが、同一競技者に対しては一回だけであることを確認した。また、スタートのやり直しに関して、担当者同士で応答し合える無線システムなどを活用し、競技



者にも状況を知らせる必要がある。

### 3. 競技規則の適用と運営法

スタンドからビデオを見せることは非

競技運営副委員長 鈴木 一弘

IAAFの改正事項をそのまま適用するかどうかを議論した。既に崩壊的に行われており、規制をすることで困難も生じていることから、上手くコントロールすることに主眼を置きIAAF通りの改正をすることとした。

フィールド種目判定時の「よし」「ダメ」発声は必要か

競技運営委員長 吉儀 宏

海外選手からは「何と言っているの?」とよく聞かれる。旗をあげているので分かること。ハンドブックの発声に関する記載は削除するが、長年の習慣はすぐには変えられないことも勘案し「発声してはいけない」とはしない。

スターターの立ち位置提案 競技運営委員長 吉儀 宏

号砲前の脚部の不適切行為は警告にとどめることとしたため、直線種目におけるスターターの立ち位置をスタートラインの前方に変更して、手が地面から離れたかどうかを注視できるようにしたいと提案し、了解された。

### 4. 質疑応答

Q (三重) スタート審判長の関わるタイミングは? スターターを見守るのか? 積極的に判定に加わるのか?

A (鎌倉委員) 基本的には独立して設定する方がよい。明らかな判定の場合は特に関与する必要はないが、悩んでいるときには一緒に判断する。スタートの行為だけ見るのではなく、どのような環境で判断されたものかも見てほしい。

(分科会: 競技部)

1. 開会挨拶 競技部長 伊地知 重信

競技部会では、例年通りのお願いになる。各陸協でいろいろな工夫をして競技会運営をされていることと思うが、それについても情報提供してほしい。

2. 競技会開催の申請 競技部委員 井上 博行

公認競技会開催の事前申請について説明した。道路競技では公認記録が認められる距離を要項に記載することや競技会中止の場合の連絡など2013年度の申請状況を基にいくつかの留意点を挙げた。

3. 記録データの申請 競技部幹事 赤峰 俊彦

競技会終了後30日以内に記録申請してほしい。記録データを電子申請する場合の注意事項などを説明した。

陸上競技マガジン編集長 高橋 克実

データ申請に取り組んでみて実際に起きている問題の報告があり、解決方法を示唆した。

4. 日本記録の申請に必要な資料 競技部長 伊地知 重信

日本記録・日本タイ記録が出た場合、その後、30日以内に必要な書類をそろえて申請する。ジュニア日本記録がぬけやすいので、注意する。陸連主催の大会でも必ず申請する。また、申請に必要な書類について細かく説明した。

5. 記録用紙の変更 競技部幹事 杉本 太郎

科学計測に対応したフィールド記録用紙の変更、また監察記録用紙も判定の欄を含め、数か所変更がある。規則修正に合わせて用紙を変更した。

### 6. 質疑応答

Q (静岡) 記録用紙をHPにUPするか?

A (伊地知部長) 記録用紙をPDF及びEXCEL形式で載せる。

Q (大分) 電子申請では気象データを付けるところがない。

A (伊地知部長) 気象データは公認申請には必要ない。

Q (茨城) 公認・非公認の大会の区別は?

A (赤峰委員) 競技者に対してわかりやすいように各陸協で工夫してほしい。

(全体会)

#### 1. 両部会決定事項報告

審判部長 黒澤 達郎・競技部長 伊地知 重信

両部、分科会での決定事項について報告した。

#### 2. 安全対策ガイドラインに関わる諸問題

日本陸連事務局事業部長 森 泰夫

アンケート調査結果を情報共有することで少しでも役立ててもらいたい。リスクがどこにあるかの認識が大切であること、また、事故が起きた時は事実に関する情報を収集することがもっとも大切になることを資料とアンケート調査を使って説明した。

#### 3. 全体質疑応答

Q (大分) スターターの立ち位置について、予選・準決勝・決勝で状況に応じて立ち位置を変えてもよいか?

A (吉儀委員長) 直線で行う競技はスターターの立ち位置は前側とする。曲線でのスタートについては同じスターターが同じ位置で信号を打った方がよいと考える。

Q (宮城) 審判登録の件でID登録の仕方の文書を各加盟団体に流してほしい。

A (吉儀委員長) 各加盟団体の登録担当者と連絡を取り合って、作業を進めていく。

4. コメンテーターより 特別委員 井上 有美

会議の内容を徹底的に検討して、伝達していただきたい。今後も中身を充実させて、全国に発信していきたい。尾縣専務理事の話にもあったように2020年はALL JAPAN体制で臨みたい。競技会開催に当たっては、主催・共催者の責任の分担をはっきりさせて危機管理をしてほしい。

5. 閉会挨拶 競技運営委員長 吉儀 宏

オリンピックの開催が決定して、2014年度トラック&フィールドのシーズンを迎えることになる。会議で了承されたルール改正や確認事項などを遵守して、競技運営に携わるようお願いしたい。

2020年東京オリンピックに向けては、いろいろな具体案を検討しているが、競技運営に当たっては各都道府県陸協から複数の審判員を派遣いただいてALL JAPAN体制で臨みたい。

競技場所で選手とのやり取りができる語学力を持つ審判員の養成もお願いしたい。

付記: 会議当日は、特に甲信越地方が記録的な大雪のため、交通機関の運休が多発して会議への欠席連絡が相次いだ。諸般の事情により順延が不可能との判断に基づき開催日程通り強行せざるを得なかった。徹底事項等に関しては、文書通達等で遺漏なきよう配慮したい。

# 2013年度全国区域技術役員会議報告

施設用器具委員会

日時：2014年2月8日（土）13：00～17：10  
2月9日（日）9：00～15：00

場所：日産スタジアム301・302会議室

出席者：施設用器具委員会委員（12名）

神奈川検定員（1名）

都道府県推薦技術役員（93名）

陸連事務局 小原由美子

施設用器具委員会では、全国検定会員会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、今年度は技術役員会議を開催した。技術役員は各都道府県陸協より93名が推薦（新規21名）され、2日間の会議に参加した者が2014・2015年度の技術役員として活動していくことになる。以下は2日間の会議の概要である。

**【第1日】** 司会（平塚 宜信 幹事）

◇配布物：全国技術役員会議資料冊子、申請用紙一式、記録用紙一式（改訂版）

◇開会の言葉：小池 一好 副委員長

◇挨拶：尾縣 貢 専務理事

雪の中ありがとうございます。国立競技場について検討中。オリンピックに向けてスポーツ庁設立予定。ここ1、2年でスポーツ界は大きく動く。実りある会にしていきたい。

◇挨拶：平塚 和則 委員長

昨年6月に委員長を拝命した。今日は93名が参加。新規は21名。1期2年の方を含めると39名。真剣に取り組んでいただきたい。地元に戻れば検定員とともに検定業務に携わってもらおう。経験が重要。頑張っていたきたい。

◇会議

1. 技術役員の内構えと検定に関する注意事項

（平塚 和則 委員長）

(1) 技術役員の内構え・心得

1925年に日本陸連ができた。90年近い歴史。その当時から検定は行われている。公認番号は1953年に第1号が出た。現在は1月22日現在で8814になった。このような制度は日本だけ。コード番号はずっと同じ。公認番号は5年の検定で変わる。途中で一部改等での検定では変わらない。コード番号→6桁都道府県・種別・続きの番号。申請関係書類。P75に派遣基準がある。昔は技術役員は4種5種の検定のみであったが現在は1種2種もある。技術を向上させてほしい。

検定派遣費用が支給される。申請書類。訂正有り。用器具検定は宿泊を伴わない。昼食は各自で用意。業者が用意したら費用を支払う。宿泊費用は夕食・朝食・宿の費用を含む。

(2) 各種申請の留意事項

今の様式は担当連絡者を記入する欄がある。申請書は3ヶ月前に出し、早く出すならその理由を確認する。委嘱を受けた検定員・技術役員を変更する場合施設用器具委員会の承認を受けるように。

(3) 保留・条件付きの事例

5年間経って全く何もしないで検定を受けることはあり得ない。保留→不合格 専務理事名で出す。条件付→1年以内に改修して再検定と言う意味。かなり数が多い。所見に指摘が多くある場合。条件付き等にした方がいいという意見もどこかに書いてほしい。その1年間はしっかりと指導・監視をしてほしい。

(4) 指導に関する考え方

各県・市等の担当者が直接陸連に来ることが多い。指導願が必要。

(5) 最近の課題

人工芝について。現在は4種のみ。投てき仕様の人工芝の導入も検討中。

マラソンコースでコースを勝手に変更して行っているところがある。その場合は公認を取り消す。技術役員は用器具・技術総務・公式計測に携わるように。地元に戻ったらお願いしてほしい。

2. 検定業務の留意事項と新検定巻尺の更新

（高木 良郎 委員）

技術役員は陸連からの派遣。陸連としての立場で物事を考えてほしい。

(1) 検定業務の総合注意

①検定業務とは

公式の陸上競技会を開催し得る施設であるかを認定する。1934年からこの制度で行っている。目的を達成するために規程・規則がある。

・派遣費用等について。P75参照。4種の継続は技術役員だけで行う。この2日間でよく学んで経験を積んでほしい。

・確認書について。「記入者」は申請者もしくは担当者でよい。請求書宛先は業者もあり得る。報告書と一緒に送らないと事務が滞る。陸協の依頼で立会、手伝いはほとんどやって構わない。改修改造したら必ず検定を受けようように指導する。

②公認期間は5年間。申請は3ヶ月前。

③公認日は検定日以降3ヶ月以内。

④廃止の場合は放置しないで届けを出すように。

⑤延期願を出しても検定が延期になるだけ。競技会は行えない。行っても記録は公認されない。

(2) 公認料・検定料の改定について 消費税への対応

・3月末日まで検定を実施した場合は5%。

(3) 2017年3月までの対応

・基本仕様B競技場は2003年にできた。なかなか改善が進まず不公平感があつたが、厳格に改正された。ルールブックのB競技場の項目は変わっているので、注意してください。

・3種の直走路6レーンの扱い→2017年3月まで降格を猶予する。

(4) 新検定巻尺について

・現行は設備と環境問題から1994年に製造中止。3月下旬まで各陸協に配布する。

・現行と試作品を比較して改良をした。JIS規格になり張力は100Nになった。

・今年の4月から新巻尺を使う。現行とは併用しない。

・計測時の呼び方は「ニュートン」にするか明日の実技で検討してみる。

3. 検定報告書類の適正な記入方法（鈴木 存 特別委員）

報告書は5年保管される。コピーして申請者・業者に渡しても良い。原本は陸連へ。誰がどこで行っても同じになるように検定は行う。1年間全く検定がない都道府県もある。この1年間で検定員5人、技術役員15人に委嘱がない人がいた。経験がものを言う。しっかりと勉強を。

(1) 検定報告書の記入上での注意事項

4月から報告用紙の形式が変わる。大きな変更ではない。報告書は業者等に書かせてはならない。検定員・技術役員が記入。1～10・30～50は申請者に記入させても良い。新設の場合はよく確認を。事前に鉛筆で○をつけて申請者に書



いておいてもらうようにする。住所変更等もこれで確認できる。申請書と報告書が違ってしまふことがある。申請書が違っている場合申請書に赤を入れて送ってほしい。

1 公認希望日は新設の時記入（公認日変更の場合も）

19 走路の状態…全天候型 商品名を書く 業者が変わった場合変わるかも。ブルーの場合はブルーと記入。新報告書では○をすることをやる。

22～施設の状態…計測基準台・棒高跳ボックス・投てきサークル・幅の数を確認。両側砂場ダブルピットは4カ所と数える。3000m障害設備1周の距離の記入ミス。代用緑石の○がない。

45 写真判定設備…点検日を確認。検定に一番近い日。検査表のコピーを付けてほしい。芝の長さをできれば書いてほしい。公認には関係ない。公認料請求先 記入してもらう。立会人はできれば肩書きも。

## B 所見書

検定要項P81に書き方の見本がある。申請者はこれを参考に改修する。細かく書く。すぐ直せるようなものもここに指摘。芝が高い競技場が多い。

総合所見はしっかり書く。ダメなことはダメと書く。現物は申請者に渡す。印を押すのは現物だけ。陸連へ送るものもコピーでよい。

## C 計算書

レベルの1m344の1は書かなくて良い。見づらい。計測基準台の数が多ければコピーしてそこに記入。基準台の材質等に○を。

全天候でマーキングの場合は中央の1つでよい。棒高跳の場所は書き換えて良い。配置図は略図で良いので書く。

3000m障害はなければ斜線でよい。500に埋めてあったら500と書いて良い。

## 4. 陸上競技場検定の基礎知識

A班…距離知識・距離実長の計算方法（講師：米岡利昌委員）

B班…距離計算・報告書作成テスト（講師：飯村光夫委員）

経験年数によりA班B班に分かれて、陸上競技場検定の基礎知識の説明・距離計算の方法を学んだ。最後にはテスト形式で距離計算・報告書作成に取り組んだ。

## 【第2日】

### ◇会 議

1. 陸上競技場・長距離競走路検定の実技（講師：本部検定員）

積雪のためメイン競技場を使用できず雨天練習場に臨時施設を設置した。

経験年数により6つの班に分かれ、距離計測・レベル計測・角度計測・施設計測・長距離競走路ワイヤー計測の実技を行った。

2. 長距離競走路の検定方法（苅込 英昭 委員）

(1) ワイヤー計測と自転車計測の区分及び派遣委嘱

ワイヤー・自転車がある。事前から連絡を密にする必要がある。

(2) ワイヤーと転写での計測方法の違い

選手が有利になるよう（距離が短い）には測れない。よく打ち合わせを。検定した通りのコース設定をしないでレースを行った場合公認を取り消すことがある。

・コース計測のライン

側端から300mmのところを計測する。コースの見通しをしっかりとる。ワイヤー計測の場合計測班とポイント班に分かれて行く。

・計測に使用するワイヤーの作成要領

検定メジャー 50mをワイヤーに転記する。

自転車計測の場合400mのカリブレーションコースを作成する。プレ・ポストカリブレーションを行う。

・道路競技の記録と競走路の基準

セパレーションとエレベーションの2点が満たされていない場合はならない。

継続検定では再計測を行わなければならない。

## 3. 規則の修正と対応について（大島 巖 副委員長）

①消費増税に対する対応

- ・いずれも消費税の率に変更の生じた場合にはその都度改正するとある。
- ・検定印について

②ラインマーキング P60から記載

(1) ハードルの位置 レーンのラインを優先

(2) 走高跳 判定補助線の塗布

(3) 棒高跳 ゼロライン 支柱の外縁まで延長する 障害物競走水壕外側のマーキング 3m660の幅の内

③検定メジャーの張力

・新しいメジャーになることで10kg→100Nとなる。

・上記変更に伴うルールの事項削除について

④第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様

投てき用芝生について106×69→106×73にまたは107×73に。

⑤その他

緑石 可能な限り白とする。

## 4. IAAFの動向と海外の競技場について（高木 良郎 委員）

IAAF規則は1月1日改正される。今年は大きな改正はなく、訳の違いによる文言の整理である。

ルールブックを適正な数量にするために「施設マニュアル」「レフェリー」に記載する動きがある。屋内競技規則は削除された。

3000m障害のスタートから1台目までの70m問題も「施設マニュアル」に記載されている。9レーンの外水壕というのは海外ではほとんどない。

IAAF競技場認証。陸連を通して申請。距離が正確で表面が平坦であるかといった基本的な点を確認する。IAAF認証がないと世界記録、アジア記録が認められない。日本では1種のみ申請可能。

投てき仕様人工芝の基準作りを進めている。

### ◇質疑応答

・新巻尺用の温度計に付ける金属片について

→同じ材質の金属片を5つ入れる予定。

・書類の改正。日付を入れてほしい。

→検定員からの指摘もあった。これからは日付を入れるようにする。

・温度計について。テープに直接温度計を付けるのはダメか？ 気象が激しく変わることがある。

→一番簡略化できるのは置いておく方法。芝とウレタンに置く方法とする。

・マーキングの変更はいつから？

→これから施工するところを実施する。施設業者には説明済み。

### ◇修了証授与

平塚和則委員長から全国区域技術役員93名を代表して岡山県・丹治氏に授与。

### ◇挨拶：平塚 和則 委員長

2日間お疲れ様でした。2年後にまたこの会議で会いましょう。それまで経験を積んで下さい。100Nの呼び方は、どちらがいいか？「ひゃくー！」「ニュートン！」挙手。「ひゃくー！」が多数。委員会で検討する。以上で終了します。



93名が参加した会議の様相

# 国際陸連 (IAAF) クロスカントリー委員会報告

IAAF クロスカントリー委員会委員 澤木 啓祐

IAAF クロスカントリー委員会は、通常、世界クロスカントリー選手権の開催地か、IAAF本部のあるモナコのいずれかで開催されるが、本年は、ヨーロッパ・クロスカントリー選手権にあわせ、セルビア・ベオグラードで開催された。特筆すべきは、クロカン委員会に併せ、委員会が従来から推奨してきたIAAFクロスカントリー・グローバルセミナーが開催された事である。ここでは、様々な視点から、クロカンについて議論がなされたが、詳細内容については、後に強化委員会・高岡委員が報告を記す。

委員会は2日間にかけて開かれ、ケニアのオケヨ氏が委員長を務め、以下、ドイツ、ウガンダ、イギリス、ポルトガル、スーダン、スペイン、オーストラリア、ベネズエラ、フランス、ロシア、カナダそして日本とIAAFスタッフをあわせて16名が出席した。

主な議題は次の通りであった。

1. 委員長挨拶
2. 前回議事録承認
3. IAAF近況報告
4. 2015年世界クロカン準備状況
5. クロカンの戦略計画
6. WMRA報告
7. クロカン・グローバルセミナー
8. クロカン・エリアセミナー

特筆すべき内容について以下、詳述する。

## 【IAAFクロカン・パーミットレース】

クロカン・パーミットレースに対し、インドア・パーミット、ワールド・チャレンジ・パーミット同様の補助金を支給する事については、IAAF内で更なる協議が必要である旨、報告された。パーミットレースの条件を満たしていない大会については、今後は規程の遵守を徹底していく方針である。

## 【2015年世界クロカン準備状況】

2015年は中国・貴陽で開催されるが、当地では10年に亘り

国内選手権が行われ、アジアクロカンも開催された。IAAF視察の結果、コースが平坦なため、世界クロカンに相応しい起伏や障害物の多いコース設定への変更を要望した。技術的な問題は無く、宿泊も確保されている。今後は地元での観客動員を推進する。クロカン委員会としては、クロカン本来の魅力的で、チャレンジングなコースを作る事、今後の開催国の条件にするべきと考える。

## 【クロカンの戦略計画】

クロカンをユースオリンピックの種目として採択させたいが、参加者人数の上限（陸上は680選手）など制約条件がある。世界選手権での実施については、カウシルへの更なる説得が必要であるが、グローバルセミナーやエリアセミナーの開催はその契機となる。世界クロカン参加国に対するIAAFからの財政援助を増加し、参加者人数を増やす必要がある。

## 【クロカンの距離】

世界クロカンの距離については、現状を支持しつつも、今後、シニア女子の距離を男子に合わせ10kmとする事も再度検討する。

## 【クロカン・グローバルセミナー】

クロカン・グローバルセミナーは選手、コーチ、メディア、スポーツ科学専門家が講演や討論に参加し、多くの参加者を得て、成功裡に終わった。その中で、クロカンの地位を向上する方法（オリンピックや世界選手権種目としての採用）、放映（選手アンバサダーの起用、魅力的なカメラワーク）、賞金システム等への提案がなされたので、クロカン委員会の中でワーキンググループを作り、検討する。

## 【クロカン・エリアセミナー】

各クロカン委員は、各々の地域で、エリアセミナーを開催させるという任が課せられた。

次回の委員会は、世界クロスカントリー選手権（中国・貴陽）の大会翌日、2015年3月29日の開催とする。

# 国際陸連 (IAAF) クロスカントリー・グローバルセミナー報告

強化委員会男子中長距離・マラソン部委員 高岡 寿成

2013年12月8日、9日に開催されたIAAFクロスカントリー委員会の際にIAAFクロスカントリー・グローバルセミナーが同地にて開催され、以下にて報告する。

## 1. 日程及び開催場所

日 程：2013年12月9日

開催場所：ベオグラード（セルビア共和国）

ハイアット・リージェンシー・ホテル

2. 参加人数及び参加国・地域 105名、52カ国

3. セミナープログラム（表1）

## 4. セミナーの内容

### ① 独自の練習法

クロスカントリー（以下、クロカン）から得た考え方や効果を発表していた。

- ・レース中の状況判断の難しさや直感力を信じることでクロカンは肉体的な発達だけでなく精神的な発達においても効果がある。

- ・自然の様々なコースを利用してジャンプやターンをすること、身体の体調を理解し、タイムに関係なく自由に走る動作がクロカン本来の良さである。

② トラック・ロードの成功におけるクロカンの役割  
クロカンの大会で活躍し、トラックやマラソンで成功を収めた経歴を持つ選手がクロカンでの効果を述べていた。

- ・持久力の強化
- ・スプリントの強化（ファクトレクトレーニングの実施）
- ・筋力の強化
- ・バランス感覚の養成（平らでない自然の地面を利用）
- ・重心移動による効率の良いフォームへの改善
- ・メンタルの強化（マラソン、悪コンディション）
- ・集中力の増大

ディスカッションではクロカンへの取り組み、挑戦することの意義、レースの準備として活用することなどについて話し合われていた。

表1 セミナープログラム

内容	発表者
独自の練習法	Annette Sergent (FRA) Craig Virgin (USA)
トラック・ロードの成功における クロスカントリーの役割	Benjamin Limo (KEN) Sonia O' Sullivan (IRL) Paula Radcliffe (GBR)
クロスカントリーでのコーチの観点	Jillo Dube (ETH) Ibrahim K Hussein (KEN)
生理学と哲学からの見方	Abdel Malek El Hebil (MAR) Gunter Lange (GER)
世界クロスカントリーへの参加	Jean Gracia (FRA) Anne Lord (AUS) Jose Maria Odriozola (ESP) Thelma Wright (CAN)
ディスカッション (クロスカントリーの未来)	Sebastian Coe (GBR) -司会 David Bedford (GBR) Franco Fava (ITA) Frank Fredericks (NAM) Tim Hutchings (GBR) Victor Lopes (PUR) Massimo Magnani (ITA) David Okeyo (KEN) Hansjorg Wirz (SUI)

③ クロカンでのコーチの観点

○ケニアの成功

- ・ 環境として高所、地形、田舎であること、ライフスタイルとして交通機関が発達していないことで歩行中心の生活である。
- ・ 競技力の向上が生活の向上となっている。学校やグループ単位で練習を行い、豊富な成功例の歴史があることが強みである。クロカンが人生の成功へのツールであることを多くの選手は理解している。
- ・ ケニアのクロカンスケジュールは11月初旬から1月の中旬までケニア選手権に向け11レース開催されている。ケニアの代表選手は世界クロカンの為にナショナルチームが選手の管理を行い、合宿をしている。

○エチオピアの成功

エチオピアの魅力は自然であり、高所トレーニングやマウンテントレーニングが可能である。持久力・スピード・フィジカルの向上を目的としてファクトレトレーニングをしている。

地面がトラックやアスファルトでないことから怪我につながりにくい事もクロカンの特長である。

④ 生理学と哲学からの見方

クロカンの効果を生理学的にみるとクロカンレースの走行時間(男子34分、女子25分)が有酸素能力の限界近くになり、ミトコンドリアや最大酸素摂取量の増大に大きく関与するとデータを用いて説明していた。

乳酸値データからも強度を高めるにはファクトレトレーニングが有効である。

研究者によるクロカンの攻略テクニック、避けるべきこと、トレーニングに相応しい条件、トラックランナーへの効果を挙げていた。

○トラックランナーへの効果

- ・ 有酸素領域の増大
- ・ 筋肉、強健な足関節、膝関節、臀部関節の強化
- ・ リズムの変動への対応能力
- ・ 筋肉の伸張領域の拡大
- ・ 直感的反応が可能

⑤ 世界クロスカントリー大会への参加

ヨーロッパでのクロカンへの関心とは反対に世界クロカンへの参加が減少している。

○参加減少の理由

- ・ 開催時期に問題がある
- ・ 賞金を考慮した上でロードや室内の大会を選択する
- ・ チームの遠征費が高額である
- ・ 選手の国籍変更で勝つことが困難である

○世界クロカンへの関心を回復する改善策

- ・ コンディションの良い開催地を選び、見応えのあるコースを設定する。
- ・ 開催地は施設が充実し、移動の便利な場所にする。
- ・ 出場料や賞金額の変更
- ・ チーム戦での人数削減
- ・ 選手の国籍変更に対し厳しいルールの策定
- ・ クロカンデーの設置

⑥ ディスカッション(クロカンの未来)

TV放映、賞金システム、開催時期による問題点や解決など参加者の立場での考えをディスカッションしていた。

5. 所感

近年、世界クロカンの参加国減少で昨年から世界クロカンの開催が隔年となった。

クロカンで実績を残した選手やコーチの成功例をモデルとして紹介、ケニア・エチオピアといった強国のトレーニング戦略を公開し、クロカンでの実益に触れて参加国減少の問題点や今後の解決策が発表された。

斬新な考えや異なる発想もなく、私たちが通常感じている一般的な考えであった。効果については各発表者とも重なる意見が多かった。

日本のクロカンとの関わりについては、環境や文化が異なるため他国と同様にはいかない。

環境面ではアフリカ諸国と違いインフラ整備されている日本は歩行を中心とした生活を送ることは不可能である。高所という環境を除いても住居付近にクロカンに適した丘陵は存在しにくい。選手が気軽にクロカンに取り組む環境には程遠いといえる。

文化面ではクロカンの歴史がヨーロッパ諸国と比べ日本は浅い。ヨーロッパ各国でクロカン練習や大会の開催時期が日本では駅伝の開催時期と同じである。伝統がある駅伝はクロカンの効果として挙げられた内容と重複する。駅伝のコース特性から起伏は脚筋力の強化となり、襪をつなぐことはチームでの信頼やレース展開で精神力を養える効果がある。

ヨーロッパでのクロカンと同様に駅伝は、国民の関心も高く観衆を魅了している点からも駅伝は必要不可欠であり、クロカンへの移行は不可能である。

クロカンの効果として見逃してはならないのが不整地を走るにより身体のバランス感覚が身に付くことである。バランス感覚は重心移動やフォーム改善にもつながる。アメリカでは補強の一つとしてバランス練習を実施しており、その効果を期待している。

日本も他国と同様に世界クロカンへの参加は移動距離が長く経済面での負担が大きいが、ジュニア世代の育成には欠かすことのできないツールと考えられる。

大いにクロカンを活用し、トラックやマラソンで日本選手が活躍するのを期待したい。

グローバルセミナーの模様



# 国際陸連(IAAF)医事ドーピング防止コミッション会議報告

理事・医事委員長 山澤 文裕 (IAAF 医事ドーピング防止コミッション委員)

例年2月に行われる国際陸連 (IAAF) 医事ドーピング防止コミッション会議 (MADC会議) が、ソチオリンピックと重ならない1月24、25日にモナコで開催された。会議前日の23日にはワーキンググループによる会議があり、筆者も競技会参加前健康診断 (PPME) グループ会議に出席した。初日 (24日) は医事関連について、2日目 (25日) にドーピング防止に関する様々な討議を行ったので、概略を報告する。

会議冒頭にエッシャー・ガブリエル事務総長は陸上競技および世界の発展のために、Athletic Better World なるロゴを作成し、健康、環境、社会的抱合、平和をめざしていくと説明した。陸上という文化、スポーツを用いて世界の発展に寄与するという、きわめて明快な説明であった。アロンソ委員長よりモスクワ世界陸上での障害疾病調査や参加者全員に対する血液検査など、医事およびドーピング防止活動が報告された。一方、2013年末までに競技者生物学的パスポート (ABP) 違反を34件摘発し、さらに疑い事例があり、ABPの有用性が示されているため、2014年もさらに血液検査を実施していく方針であることが示された。

## 医事関連

1. 障害疾病予防：若年アスリートのオーバーユースによる障害の予防につなげることを目的とし、2012年からプロジェクトを開始している。リスク評価を体調、既往歴、オーバーユースも含めて行い、障害疾病予防のコンセンサスを作成する予定である。現在の後ろ向き研究だけでなく、前向き研究も予定しており、そのためのITツールの開発を考えていくこととしている。本件に関しては、陸連やJISSマルチサポートですでに作成しているITツールで十分前向き調査が可能となるので、陸連としても早急に実施を考えたい。
2. 競技会参加前健康診断 (PPME)：IAAFは運動中の突然死のリスクを低減させることを目的に、競技会参加前健康診断を各国陸連に推奨している。その具体的な内容を検討し、Document1 問診票、Document2 医師の診察、Document3 医師の診断書 からなる書式を作成し、それをもとに健康診断を実施してもらうこととした。それを広めるための教育普及活動の一環として、7月の世界ジュニア (ユージーン) にて、100人程度の競技者を対象に心電図を含めたPPMEを現場で実施することとした。
3. ABP検査値異常者に対する医学的対応：IAAFではABP異常検査値ガイドラインを作成し、異常者に対して医学的倫理的な立場、競技者の健康確保の点よりレターを出している。フェリチンについては男700以上、女500以上を異常値としている。競技者のフェリチンが高値を示す場合、エリスロエチン (EPO) と鉄剤の同時投与が考えられるため、ドーピングをしている競技者に注意喚起をしているようなものでもあるが、デグと比べてモスクワ世界陸上でのフェリチン異常値発現率は減少した。ABPによるEPO乱用の抑止効果と考えられる。
4. 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) についてのTUE申請の取り扱い：ADHDのTUE申請が少しずつ増加し、しかも

30歳代で発症という一般的でない事例のTUE申請もあり、IAAFとしてポリシーをまとめる必要が生じた。症状の発現時期の確認、症状に関する周囲の関係者からのレター、DSM-IV診断基準の合致などを、スポーツと関連のない2名のADHD専門医師の診断を受けたいうえで、それらからの診断書を添えたTUE申請のみを受け付けることとした。最大、1年間の付与とし、毎年1名の専門家により病状について報告してもらい、4年したところで再度2名の専門家の診断を受けることを定めた。わが国においては、ADHDの診断を受ける競技者は多くはないが、今後増加していく可能性は高いと思われる。

## ドーピング防止関連

1. 2013年ドーピング防止プログラム：陸上競技では27,836件の検査が実施された。そのうち血液検査は3,214件あり、すでに検査全体の11.5%を占めている。日本陸連も2013年度よりマラソン前血液検査を開始し、世界のスピードに遅れを取っていない。モスクワ世界陸上では尿538件と参加選手全員に対して競技会前ABP血液検査1,919件が実施された。IAAFの競技会外検査は1,883件の尿検査と385件のABP血液検査であった。IAAFはターゲット検査を多く実施しており、1名当たりの競技会外検査は3～5回で、競技者によっては10回検査対象となった選手もいた。2013年で特筆すべき規則違反は、蛋白同化ステロイド薬7例、EPO 2例を検出したケニア陸連のスキヤンダルである。事態を重く見たIAAFはケニアに血液検査施設を設置し、いつでもケニア国内で血液検査をできる体制とした。
2. 2014年ドーピング防止プログラム：2013年同様に国際陸連主催競技会において競技会前血液検査を実施していく予定で、ABPのさらなる充実を図る。また、検査登録リスト競技者の競技会外検査は選手あたり3検体を維持する。
3. ステロイドプロファイル：血液ABPと同様に、各選手の尿中ステロイド濃度を長期間にわたって観察し、内因性ステロイドの乱用を検出するステロイドプロファイルが確立されつつある。手法は血液ABPと同じくバイズ統計を用いたアダプティブモデルであるが、尿中ステロイド濃度や濃度比は人種によって大きく異なる (たとえば、日本人のテストステロン (T) / エピテストステロン (ET) の多くは0.2であるが、欧米人のT / ETは1～2である) ため、慎重な取り扱いが必要になる。今後、広く世界中で用いられる手法になる。
4. 世界ドーピング防止規程 (WADC) 改訂：WADCが改訂され、2015年1月より発効する。大きな改訂としては、規則違反による資格停止期間が現行2年間から4年間へ厳格化、ドーピングに関連するあらゆる事柄に関して調査が行われ、それを基に検査が実施、規則違反の時効が8年から10年に延長される一方、居場所情報義務違反については18ヶ月から12ヶ月の範囲での3回に短縮される。IAAFドーピング防止規則はWADC改訂に合わせて秋までには改訂される。

# 大会観戦ガイド

## 第98回日本陸上競技選手権大会50km競歩 兼第17回アジア競技大会(2014/仁川) 男子50km競歩代表選手選考競技会 第53回全日本競歩輪島大会

50km競歩の日本選手権が迫りました！日本トップウォーカーたちが今秋に韓国・仁川で開催されるアジア競技大会の日本代表を懸けて争います。熱い競演にご期待ください！

### ▼種目・スタート時間：

4月19日(土) 全日本競歩輪島大会

全日本男子	10km競歩	13時00分
ジュニア男子	10km競歩	13時00分
全日本女子	10km競歩	13時05分
ジュニア女子	10km競歩	13時05分

4月20日(日) 日本選手権

50km競歩	7時30分	
全日本競歩輪島大会		
女子高校1・2年	3km競歩	9時00分
女子高校	5km競歩	9時30分
男子高校1・2年	3km競歩	10時30分
男子高校	5km競歩	11時30分



日本選手権50km競歩昨年優勝・谷井孝行選手



日本選手権50km競歩・昨年の大会の様子

▼コース：輪島市文化会館周回コース・日本陸上競技連盟公認競歩コース(1周2kmの周回コース)

▼アクセス：(石川県輪島市文化会館付近)

石川県輪島市文化会館は「道の駅 ふらっと訪夢」前。「道の駅 ふらっと訪夢」へは能登空港からふるさとタクシーを利用。能登空港発着便に合わせて利用可能(要予約)。

・運賃一律900円(1人/片道：輪島市内)

・予約先 港タクシー株式会社

TEL：0768-22-2360

▼問合せ：輪島市教育委員会生涯学習課内

日本選手権50km競歩・全日本競歩輪島大会

実行委員会事務局

TEL：0768-23-1176

▼日本陸連HP内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1172/>

## 第16回長野オリンピック記念 長野マラソン

1998年に開かれた長野オリンピックを記念して1999年より開催の長野マラソン。エムウェアブ、ホワイトリック、ビックハットなどのオリンピックが開催された会場前を通るコースに、10,000人が集います。

▼日時：4月20日(日) 8時30分スタート

▼コース：長野オリンピック記念長距離競走路

スタート：長野市吉田・長野運動公園

フィニッシュ：長野市篠ノ井東福寺・長野オリンピックスタジアム

▼アクセス：

◇長野運動公園 JR篠ノ井線「北長野駅」下車、徒歩15分

◇長野オリンピックスタジアム JR篠ノ井線「篠ノ井駅」下車、徒歩30分、長野駅・篠ノ井駅よりシャトルバス

▼問合せ：長野オリンピック記念長野マラソン大会

組織委員会事務局

TEL：026-234-6380(受付時間：平日9:30～17:00)

<http://www.naganomarathon.gr.jp>



## JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 湖南市朝国607番地  
TEL.0748-72-2056 FAX.0748-72-2056  
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

滋賀県では、平成36年(2024年)に、第79回国民体育大会の決定が内々定しております。協会としては10年後の滋賀県の陸上競技を担うアスリートの育成に全力で取り組んでいくつもりです。また、ロンドンオリンピックへの出場や東京国体で優勝した女子棒高跳の我孫子智美選手、滋賀県出身の桐生祥秀選手は、滋賀が輩出した世界で戦えるアスリートです。

平成26年度も、滋賀の競技力発展のため努力してまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

(文責：強化委員長 馬場豊)

## JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内  
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766  
http://www.oaaa.jp/

ジュニア室内日本新に沸いた60m男子!! (大阪城ホール)

2014日本ジュニア室内陸上大阪大会は、2月8、9日大阪城ホールで開催。ジュニア男子60mでは、桐生祥秀選手(洛南高校)が予選で6秒63のジュニア室内日本新記録を樹立。決勝でも他を大きく引き離す6秒59をマーク、新記録を塗り替え、IAAF世界室内陸上での活躍に期待を膨らませた。また、ジュニア男子三段跳では、山本凌雅選手(諫早農業高校)が15m71、犬井亮介選手(洛南高校)が15m69と、ともにジュニア室内日本新記録を樹立、今後の成長が期待される。

5月11日、第1回木南道孝記念陸上競技大会を開催!!

(ヤンマースタジアム長居)

大阪陸協では、ヘルシンキオリンピック110mH代表として活躍した故木南道孝元会長(元日本陸連名誉会長)の功績を記念し「第1回木南道孝記念陸上競技大会」を開催します。

木南先生は、旧制四条畷中学(現大阪府立四条畷高校)在学時からハイハードル選手として活躍され、昭和14年には日本選手権大会で優勝。昭和26年には14秒5の日本新記録を樹立、昭和20年代の我が国を代表するハードラーでした。大阪陸協では、2020東京オリンピック・パラリンピックを前にハードル選手の強化、育成、とりわけ世界に通用するジュニア世代の選手の育成を目的として、来る5月11日(日)、大阪市長居陸上競技場において、男子110mH、女子100mH、男女400mHを中心とする競技会を開催いたします。多くのご来場をお待ちしています。

(文責：常務理事 讃岐富男)

## JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2  
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501  
http://www.krk26.jp/

皇后盃第32回全国女子駅伝は1月12日に開催され、京都府チームが2時間15分32秒で3年ぶり15回目の優勝を果たしました。開会式で長崎県チームの森智香子主将が「2020年東京オリンピックへの挑戦者として、都大路に新たな歴史を刻みたい」と宣誓したように、この女子駅伝から世界へと羽ばたいていく選手が今後も続くことを願うものであります。

「京都マラソン2014」は、2月16日に開催されました。当日は好天に恵まれ、約15,000名のランナーが都大路を駆け抜けました。沿道には多くの応援者も出て、京都全体がマラソンで盛り上がった一日となりました。今回は「InterFaith駅伝～平和を願う祈りの駅伝」も同時に行われました。これは、世界のさまざまな宗教関係者が駅伝をしてタスキをつなぎ、世界平和を希求するというものです。4区間10チームが出場し、全チームが完走しました。

(文責：広報部長 相模浩史)



京都マラソン男子1位フィニッシュの様子

## JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒655-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号  
神戸市生涯学習支援センター内  
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772  
http://www.haaa.jp/index2.html

例年になく寒い日々が続きますが、皆さま方にはますますご清栄のことと存じます。

本協会は今年度で80周年を迎え、11月30日には創立80年記念祝賀会を開催しました。一般財団法人となって2期目、特別委員会を立ち上げ、協会運営の不備・不都合を整理し、定款及び運営規則の一部見直しも完成いたしました。

男子第68回、女子第29回兵庫県都市区対抗駅伝競走大会を、2月2日加古川河川敷コースで開催しました。「駅伝の兵庫」の礎となった由緒ある大会です。一部から三部までが各10チーム、四部は15チームの編成で実施します。中学生が2区間を走り、有力選手もふるさと選手として各都市区に帰り、白熱した大会となります。ケーブルテレビが共同で映像を制作し、地区ごとに放映されます。兵庫県民は駅伝に強い関心があり、全国都道府県駅伝競走大会は県民注目の的となります。

第97回日本陸上競技選手権大会男女20km競歩を、2月16日に六甲アイランド甲南大学周辺公認コースで開催しました。鈴木雄介選手(富士通)が日本新記録で昨年に続き連覇し、非常に盛り上がった大会となりました。

平成26年度競技会は4月12・13日の県記録会に始まり、4月19・20日には第62回兵庫リレーカーニバルを実施します。アジア競技大会代表選手選考競技会となっており、選手の高いパフォーマンスが今から楽しみです。



# 陸協NEWS



**JAAF**  
NARA

一般財団法人奈良陸上競技協会

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号  
TEL.0742-27-2312 FAX.0742-27-2312  
http://www.narariku.com/

昨年11月15日、陸連主催「キッズアスリート・プロジェクト夢の陸上キャラバン隊」を三宅小学校で開催しました。陸連派遣選手のわかりやすい説明と楽しみながら行える活動により、陸上競技を含む身体活動の楽しさを味わった一日でした。今回のような普及活動により競技人口の減少に歯止めをかけるとともに、競技者のすそ野を広げる取り組みを積極的に推進したいと考えます。

また、年末に高校生・年始には中高生を対象とした合同練習会を開催いたしました。近年の競技力低下と選手の他府県流出を防ぐために中高の指導者が長期展望のもと一体となって選手育成ができるよう指導の一貫性に取り組んだ研修会でした。

**JAAF**  
TOTTORI

一般財団法人鳥取陸上競技協会

〒680-0944 鳥取市布勢146-1  
コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(第2研修室)  
TEL.0857-28-6540 FAX.0857-28-6540  
http://www.hal.ne.jp/trk/

3月16日に「鳥取マラソン2014」を開催します。鳥取マラソンとなつてからは7回目ですが、その歴史は、当初、倉吉市で開催した日本海マラソンから数えると30年以上の歴史ある大会です。このたび、県と市の絶大な支援をいただき、「新生鳥取マラソン2014」として新たなスタートを切るようになりました。全てがゼロからスタートで、新たな組織で新たな運営方法を模索しながら、鳥取方式確立に取り組んでいます。フルマラソン3,000人は大規模マラソン大会全盛の中、小規模ですが、毎年500人ずつの参加者の増員を見据え、最終的には5,000人規模の大会に拡大することを想定しています。今年は申込み開始1週間で3,000人を超える状況で、ランニング愛好者の増大を実感しています。コース条件や宿泊のキャパシティ、スタッフ数等の事情から、このあたりが適正かつ最大の規模と考えています。全国数あるマラソン大会の中でどれだけ魅力ある大会にしていくかが発展のカギと考えています。あくまでも日本陸連公認コースにこだわり、かつ鳥取をまるごと満喫できるコースを設定しました。鳥取砂丘をスタートし、鳥取市内の美観地区、そして歴史豊かな因幡万葉の里を巡り、鳥取を代表する芳醇の川、一級河川千代川を横にみて、布勢陸上競技場をフィニッシュとします。記録や順位だけでなく、全身で鳥取を体感していただける大会にしたいと思います。安全で公平な競技運営はもちろん、一流選手から初心者までそれぞれ目標を持って走ることができ、ランナーに優しい大会運営を目指していきます。特に初心者に優しい大会運営を目指します。(文責:専務理事 新田明彦)

**JAAF**  
WAKAYAMA

一般財団法人和歌山陸上競技協会

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺運動公園陸上競技場内  
TEL.073-444-3662 FAX.073-444-3662  
http://wariku.com/

日本GP・第2戦・2014日本選抜陸上和歌山大会を4月26日(土)~27日(日)に紀三井寺公園陸上競技場で開催します。

本大会には、日本のトップアスリートが多数出場予定で、特に女子4×100mリレー、4×400mリレーの日本選抜メンバーが出場と、男女混成競技のトップ選手が紀三井寺に集結します。

本県では、2015年に全国高校陸上大会・紀の国わかやま国体を開催することになっております。この二つのビッグ大会を迎えるに当り観客増員に目を向けて、本年度の各競技会ごとに、テレビ・ラジオ・新聞等を通じて観客増員を目指して観戦のしかた、醍醐味、おもしろさ等をPRして参りたいと存じます。

全国的にこの問題は共通課題ですが、世界に通じるトップアスリートが出場するような国際競技会になれば観客数は増大する傾向にあります。

このことは、なんとと言っても強い日本陸上を構築することが先決であるように伺われます。

本陸上競技協会といたしましても組織を挙げてこのPR活動に積極的に取り組んで参る所存であります。

(文責:総務委員長 中公之)

**JAAF**  
SHIMANE

一般財団法人島根陸上競技協会

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内  
TEL.0852-23-6686 FAX.0852-23-6686  
http://www.shimariku.jp/index.html

昨年11月1日(金)には「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」が、日本海に浮かぶ離島隠岐の島で開催されました。4名のトップアスリートを招き、西郷・中条・有木・磯・北・五箇・都万の7校から461名の児童が参加し、西郷小学校のグラウンドで楽しい指導と、デモンストレーションが行われました。この中から2020年東京オリンピックの選手が輩出されることを期待して終了しました。

平成26年1月25日(土)・26日(日)に常務理事会並びに理事会を開催し、栄章受章者と、各専門委員会、専門部の中間報告、26年度の行事予定について審議しました。理事会後には栄章授与式を行い、功労章7名、勲功章2名、優秀指導者章13名、優秀選手章25名の方々に後藤副会長より授与されました。

平成26年4月待ちに待ったトラックシーズンが幕を開けます。4月6日(日)「第69回穴道湖一周駅伝競走大会」を開催します。松江市営陸上競技場を発着に7区間61.2kmを1部(市町村対抗)、2部(クラブ等の対抗)、3部(高校対抗)で競います。昨年は68チームの参加がありました。今年度も風光明媚な穴道湖畔を春風に乘って駆け抜けて貰いたいと思います。また、4月19日(土)、20日(日)には「吉岡隆徳記念第68回出雲陸上競技大会」を開催します。日本陸上競技連盟の後援をいただき、毎年多くの招待選手を招き、男女招待100m、300m、招待高校男子5000m、招待高校女子3000mのレースを行います。世界リレーの代表選手選考参考競技会としての開催で、招待選手・地元選手の活躍を期待しています。(文責:総務委員長 矢野力)

## 事務局からのお知らせ

### ◆◆2014年トラック&フィールドシーズンが始まります！◆◆

今秋、韓国・仁川で開催される第17回アジア競技大会の代表選手を目指すトラック&フィールドシーズンが始まります。2014日本グランプリシリーズは下記日程で開催されます。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、新たなスターの誕生を、競技場でお楽しみください！

#### 【2014日本グランプリシリーズ】

##### 第1戦 第62回兵庫リレーカーニバル

大会日：2014年4月20日（日） 会場：ユニバー記念競技場 <http://www.haaa.jp>

##### 第2戦 2014日本選抜陸上和歌山大会

大会日：2014年4月26日（土）～27日（日） 会場：紀三井寺公園陸上競技場 <http://wariku.com>

##### 第3戦 第48回織田幹雄記念国際陸上競技大会

大会日：2014年4月29日（火・祝） 会場：広島広域公園陸上競技場 <http://www1.ocn.ne.jp/~hrk34/index.htm>

##### 第4戦 第30回静岡国際陸上競技大会

大会日：2014年5月3日（土・祝） 会場：静岡県小笠山総合運動公園エコパスタジアム <http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&/>

### ◆◆マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条◆◆

全国各地でマラソン大会が開催され、マラソンシーズン真っ盛りですが、レース参加に当たっては、下記、「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条」をよくお読みの上、ご参加ください。

1. 普段から十分な栄養と睡眠をとりましょう。
2. 喫煙習慣をやめましょう。
3. メディカルチェックを毎年受けましょう。
4. 生活習慣病がある方は、かかりつけ医とよく相談しましょう。
5. 計画的なトレーニングをしましょう。
6. 気温、湿度に適したウェアの着用と、適切な水分補給をしましょう。
7. 胸部不快感、胸痛、冷や汗、フラツキなどがあれば、すぐに走るのを中断しましょう。
8. 足、膝、腰などに痛みがあれば、早めに対応しましょう。
9. 完走する見通しや体調に不安があれば、やめる勇気を持ちましょう。
10. 心肺蘇生法を身につけましょう。

また、本連盟ウェブサイト・医事委員会のページに「市民マラソン・ロードレース申込み時健康チェックリスト」を掲載しています（<http://www.jaaf.or.jp/medical/healthcheck20130411.pdf>）。

こちらもお読みの上、ご参加ください。

### ◆◆メールマガジン配信中！◆◆

日本陸連公式メールマガジン「JAAFアスレティックメール」を好評配信中です。

登録は <http://mm.jaaf.or.jp/mailmagazine> か、右のQRコードから！



## 陸連時報編集委員

#### ◇編集委員

横川 浩（陸連会長）  
三宅 勝次（陸連副会長）  
友永 義治（陸連副会長）  
尾縣 貢（陸連専務理事）  
原田 康弘（陸連強化委員長）  
風間 明（陸連事務局長）  
高橋 克実（陸上競技マガジン編集長）

#### ◇時報編集室責任者

森 泰夫  
◇時報編集担当  
繁田 進  
石塚 浩  
木越 清信  
宮田 宏  
本田香代子  
森谷 真咲

## 陸連時報編集室

〒163-0717  
東京都新宿区西新宿2-7-1  
小田急第一生命ビル17階  
公益財団法人日本陸上競技連盟 内  
TEL 03-5321-6580  
FAX 03-5321-6591  
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>  
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>